

## 《腸管出血性大腸菌》

特徴・・・人や動物の腸内に存在

主に牛など家畜の腸管内に生息しており、赤痢菌と類似の毒素を産生する大腸菌です。感染力が強く、少量（50個程度）でも発病することがあります。

下痢以外に、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳障害を併発することもあります。

原因食品・・・加熱が不十分な肉など

原因としては、糞便中の菌が肉や野菜、水等を汚染する場合や、汚染を受けた食品や調理器具等からの二次汚染があります。また、動物から人に直接感染する場合や、感染者からの二次感染等があります。

症状・・・腹痛、下痢（時に血便）、発熱など

潜伏期間は2～7日程度（平均3～5日）で激しい腹痛や水様下痢を起こし、発症して1～2日後に血性下痢（下血）がみられます。

成人では感染しても症状がないか、あっても軽いことが多いのですが、乳幼児や高齢者の方では重症に至る場合もあり、特に注意が必要です。

重症の場合は、腎臓に害がおよんで尿が出にくくなり、体がむくむようになります。さらにひどくなると尿毒症になり、強いケイレンや意識障害をひきおこすこともあります（溶血性尿毒症症候群）。

予防法

- \* 手指はよく洗い、消毒をする。
- \* 食材はよく洗い、十分に加熱する。（中心温度75℃で1分以上）。
- \* まな板、包丁などは食材ごとに使いわけ、よく洗い、殺菌する。
- \* 定期的に水質検査を実施する。

参考：腸管出血性大腸菌感染症にご用心（三重県ホームページ）

<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000120142.pdf>